

place 和 気 町

WEBデザイナー・翻訳家
三村 絵美さん

profile

神奈川県出身。家族構成は、米国・ハリウッドの映画製作に携わるフリーランスのVFXデザイナーである夫のFabio Piresさん（ポルトガル出身）と子ども3人（移住時は2人）。安全で健康的な子育て環境を求めて2018年、NYから日本へ。半年かけて8自治体を見下し、2019年春、和気町にターン移住。現在は、夫と立ち上げた越境ECサイトを通じ海外顧客に備前焼を販売している。



「こういう風景の中で子育てしたい」と思い描いていた通りの町。子どもが自転車で行き来できる距離に同年代の子どももたくさん住んでいる、最高に恵まれた環境です。

移住前は東京を拠点にオンラインによる都市と地方の教育格差解消に取り組んでいました。コロナ禍を契機に各地でオンライン教育が本格化、前職の会社の事業も急成長を遂げましたが、地方の衰退が加速することに危機感を抱いていました。そんな時、知人の紹介で高梁市のGIGAスクール構想に協力する機会を得て、やるからにはとっぴり地域に入り込みたいと考えるように。市内を散策するうち、古き良き町並みと古民家、そして何よりも子どもたちの生き生きとした表情に魅せられ、夫婦で移住を決心したのです。

地域×チャレンジ移住
教育DXを軸に
地方と子どもたちの
未来を拓きたい！
オンライン教育は本格化したけど…

さらに、学校の枠を超えて、地域と連携した活動を支援できるよう「高梁OoChallenge」という団体を立ち上げました。この自治体の規模だからできることもたくさんあるので、教育現場と協力しながら質の高い学びを創り出し、高梁が盛り上がるように挑戦し続けていきたいと思っています。

全国平均を上回る学校ICT活用へ
学校の枠を超えた支援を展開

まずは現場で汗をかく
アドバイザー的な関わり方も選択肢としてはありましたが、高梁市の学校や地域の状況を見渡すと、ブレイヤーの少なさが課題に思えました。まずは自らブレイヤーとして動き、現場で汗をかき、先生や児童生徒に寄り添いながら教育DX推進を始めました。



クラウドファンディングで資金を集め、「駄菓子店」として地域に愛されてきた築約100年の空き店舗をセルフリノベーション。人々が集う場として活用しています。

place 高 梁 市

高梁市GIGAスクールサポーター
高梁市学校連携コーディネーター
高梁100challenge代表
横山 弘毅さん

profile

神奈川県出身。大学卒業後、2007年、オンライン教育サービスを手掛ける東京のベンチャー企業に参画。同社役員を退任し、2020年に高梁市へターン移住。教育DXを軸に、人口減少や地方課題を解決するモデルを創出しようと挑戦中。家族構成は、妻（高梁市地域おこし協力隊）と子ども1人（移住時は夫婦のみ）。

移住者に対してウエルカムな町

散歩中に高齢の方が話し掛けてくださり野菜をいただくことも。日本語の話せない夫とも英単語や身振り手振りでコミュニケーションを取ろうとしてくださるなど、町全体がウエルカムな雰囲気になっています。

行政のほど良いフォローで
地域に溶け込める

町から交流会などのイベント、「こういう方がいるから友達になってみては」と案内してもらった情報を選んで参加するうちに自然と友達が増えました。押し付けではない、適度な距離感が心地良かったです。

子育てで最優先の親子が集まる町

和氣に移住してきた多くの子育て世帯が子どもを最優先に考えているので、育児を母親一人に任せず二人で頑張っている方が多く、互いの仕事や趣味など自分らしい生き方も尊重し合っている印象。父親同士が子どもを連れて集まって外遊びする姿も普通に见られる環境なので、女性も育児と仕事を両立しやすいと思います。

place 美 作 市

合同会社オフィスキャンブ
古民家宿「難波邸」
農家民宿「UJITEI」
「トム・ソーヤー冒険村」運営

山本 侑香さん[左]

アトリエナカウテ
一級建築士事務所 代表
丸山 耕佑さん[右]

profile

山本 侑香さん
岡山県津山市出身。大学卒業後、ベルギー・アントワープを経て2012年にUターン移住。家族構成は夫でジュエリーデザイナーの敦史さんと子ども1人（移住時は夫妻のみ）。

丸山 耕佑さん
福岡県出身。大学卒業後、東京の設計事務所勤務。1級建築士取得後、2016年に美作市地域おこし協力隊として単身Uターン移住。2019年に関西から移住してきた由里子さんと結婚。



地域×起業移住

昔から旅人が行き交う
宿場町だから生まれた
出会いと人情、支え合い。

伝統とモダン、
人が交わる宿場町

山本 デザインを生業とする私たち夫婦は、因幡街道の宿場町として栄えた「大原宿」のある美作市に移住。津山市で農家民宿「UJITEI」を運営していたノウハウを生かし、街道に面した古民家宿「難波邸」「コワーキングスペース・ジュエリーショップ併設」も運営するようになりました。美しい町並みを眺めていると、ここで何かを始めたい人が増えるというなど思うようになったんです。

丸山 東日本大震災を機に田舎暮らしを考え始め、2013年に美作市の山村「ワーキングホリデー」に参加。そこで先輩移住者の山本夫妻に出会い、田舎を拠点にクリエイティブな活動をしている二人の姿に感銘を受けたんです。山本 私と夫が東京で開いた展示会に

移住者が移住者を
呼び込む好循環

丸山 出店サポートを行うようになり、少しずつ通りに店が増えてきましたね。建築士として空き家のアテンドや大家さんとの交渉にも関わり、改築の相談にも応じています。

山本 同じ通りで仲間と一緒に商売できるとすごく楽しいし、未来への可能性を感じています。コミュニティが育ってきていると感じますね。通りを歩け

さらに人を呼び込む
街道へ

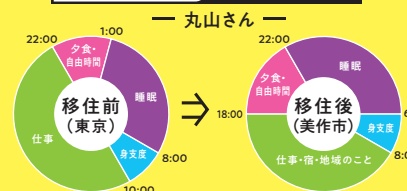
山本 今や全ての宿を合わせると年間1万人以上のお客様を迎える宿に育ち、長期間滞在するアーティストや海外の方も増えています。さらに、ここ大原宿と因幡街道でつながる兵庫県の平福宿、鳥取県の智頭宿の事業者と協力し、お客様に三宿を回遊していただけるような情報発信や仕組みづくりにも取り組んでいます。

丸山 大原宿に関心があるならば、まず遊びに来てみてください。人とのつながりをつくってみることから始めたいと思いますよ。



先に移住したデザイナーの山本さんと1級建築士の丸山さんと一緒に、古民家を活用した出店や新しい事業・サービス、暮らしをつくる人が増えています。

「時間の使い方」比べてみると
from TOKYO MIMASAKA CITY



丸山さんは移住後、山本さんとのつながりで大原宿に出店を希望していた、兵庫県出身の由里子さんと出会い、1級建築士として店舗設計や古民家改修を担当。「あんこや べ」の開業後、結婚。この頃から、山本さんと協力して新たな出店者や移住者のサポートを行うようになりました。店舗の一角には丸山さんの仕事スペースを設けています。



place 瀬戸内市

ハードウェア開発責任者
日野原 錦さん

profile

鳥根県出身。岡山県内の大学卒業後、総合家電メーカーで開発に従事。都内で次世代電動車イスを開発する企業のエンジニアを経て、2020年、東京を拠点にシェアリングIoT農園を展開するスタートアップ企業に参画。「人と自然に優しいテクノロジー」の開発を目指して活動中。家族構成は妻の恵さんと子ども1人(移住時3歳)、愛犬1匹。2022年に瀬戸内市へU(リ)ターン移住。



家族と過ごす時間が増え、子どもの日々の成長を見守る幸せを実感しています。食事も家族みんなで食べるようになり、生活にも心にもゆとりが生まれました。

家族みんなアウトドア好き。子どもたちはツリーハウスをつくる約束をしていたものの「山ぐらしをしたい」という私の夢に子どもたちを巻き込むのは不安でしたが、家族は大喜びしてくれました。食べ物がおいしそうな岡山県に興味を持ち、お試し住宅に2回滞在。都内の「とっとりおかやま新橋館(移住しこ)相談コーナー」に相談して、地域ぐるみで子育てに取り組みむ町を探していたところ、たまたま山の上の一軒家とその地区に移住者を迎え入れている団体「コンシードレ山手」につながったのです。

水汲み、薪割り、DIY…、
毎日がキャンプみたいで
不便だけど楽しい！

いつかツリーハウスをつくりたい！

現在、私たちも「コンシードレ山手」に加入し受入側に。移住支援や祭りの手伝いなど地域活動に参加しながら、釣りやバーベキューなど山ぐらしを満喫しています。2023年には妻が任意団体を立ち上げ、地域の大学生や中高生、その親世代と一緒に子どもたちの居場所となるツリーハウスづくりに取り組んでいます。

家族の夢が地域の夢に！
ツリーハウス実現へ

最大の悩み「古民家改修」は最高の楽しみ

築70年以上の古民家は雨漏りもするし、床の傷みも激しかったのですが、一部プロの力を借りつつ、床や壁の改修はセルフペーショを楽しんでいます。やりたいことがいろいろあり、体力のある若いうちに移住して良かったと思います。

ゆったり里山ぐらし移住

place 久米南町

3D-CAD技術者
(鉄骨施工図・原寸)
のふゆき
池田 裕之さん

profile

千葉県出身。建築系の鉄骨施工図を作図するプロとして独立。家族構成は、妻の恵さん(埼玉県出身)と子ども2人(移住当時は小学6年生と1年生)。コロナ禍に自宅で仕事をするうち、「この仕事はどこでもできる」と確信し、家族みんなの憧れだった「山ぐらし」を決心。2020年、久米南町の南部、ブドウ栽培が盛んな標高300mの山手地区へ1ターン移住。



移住による最大の変化は、キャンプに行かなくなったこと。自然に囲まれ、見晴らし最高の自宅の庭でBBQしたり、薪で沸かした風呂に入ったり、不便を楽しんでいます。

リモートワークしながら
せとうちの海と太陽、
家族の笑顔に包まれて幸せ！

子どもと過ごす今を大切にしたい！

リモートワークを続けるうちに「関東にいない必要はない」と思い始めたんです。家は日当たりが悪く、窓の外は壁。隣の住人も分からず、外出先でも子どもから目が離せない緊張状態が続く中、自然が豊かで、子どもと祖父母が気軽に会える環境で子育てをしたいと思うようになり、妻の故郷でもあり、私が大学時代を過ごした岡山県に帰る決意をしました。岡山県や自治体の移住セミナーにはリモートで参加。帰省のついでに現地を見て移住相談をしたり、物件を探したりしました。

新しい趣味を始める
ゆとりも生まれた！

車中心の生活だとなかなか歩かないので、運動不足にならないようランニングを始めたらず、マラソン大会やトレイルランニング大会に出場するようになり、週末には、妻の美家近くにつくった農園に通い、果物や野菜を育てています。趣味がどんどん増えて毎日が充実しています。

子育てが一段落した後のために

「子どもの手が離れた時に自分のコミュニティをつくっておきたい」という妻の願いをかなえるため、住居とは別に古民家を借りて改装し、美容室をオープンしました。

家賃は半分、広さは倍に！

移住直後は、ミニ環境を求めて海辺のコワーキングスペースを利用していました。現在は4LDKの自宅が仕事場です。愛犬が走り回れる広さの庭で子どもを遊ばせながら見守っています。

place 倉敷市

編集者・ライター／
本屋「aru」店主
あかし ゆかさん

profile

京都府出身。大学卒業後、東京のIT企業のブランディング部門で5年間、取材・記事制作に携わる。会社員を続けながら業務では扱えない生活文化などの分野で記事制作・編集の副業を展開。2020年3月にフリーの編集者・ライターとなり、2021年5月、倉敷市児島に本屋「aru」を開業。東京と倉敷で二地域居住実践中。



ライト移住(二地域居住)
瀬戸内海の美しい眺めに癒やされつつ、
二地域居住や移住を楽しむ人々に
刺激をもらえる、私のパワースポット。

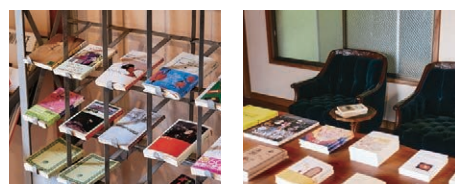
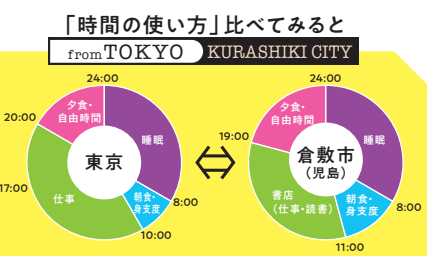
きっかけはワーケーション
会社を辞めてフリーの編集者・ライターになった2020年、環境の変化やコロナ禍などで精神的に落ち込んでいた時に、友達の手協平さんが、運営する海見える宿泊施設「DENIM HOSTEL float」(以下float)に「来てみたら」と声を掛けてくれたんです。それで、7月に2週間ほど滞在し、ゆったり休みながら仕事をしてみたら不思議と肌になじんだんです。

ユニークな人が
全国から集う場所
しかも、山脇さんと島田さん兄弟の縁で、floatには全国各地からユニークな活動をしている人が集まります。二人を通じて知り合った岡山県内の友人たちも面白い。編集者やライターにとって、多様な人と出会える環境は魅力的で、何かが生まれそうだと感じ、「こっちは拠点を持っていいかな」と思い始めました。

海見える本屋をつくらう
これまで、いろんな土地で海を見てきましたが、瀬戸内海が一番好きです。穂

二地域居住を
長く続けたい
現在結婚し、パートナーは東京在住のまま、1か月のうち20日が東京、10日が倉敷のベースで往來しています。倉敷にはアパートを借り、車も購入しました。

東京と倉敷を往來するうち、どちらも新鮮に感じるようになりました。一つの場所に留まっていたと飽きたり、「これでのいいかな」と不安になったりしますが、定期的に環境が変わること、私にとって「どちらも必要」なことと気付きました。今後、もし子どもが生まれれば環境が変わっても、この生活を続けられる方法を模索していきたいです。



ベストセラーやビジネス書などは扱っていません。読むと穏やかな気持ちになれる本、自分と対話できるような本、瀬戸内海の雰囲気に合う優しい雰囲気の本を置いています。



東京にいるときは1時間刻みで予定が入るので慌ただしく、生き急いでいる感じがります。それはそれで良さもありますが、倉敷では流れる時間がゆっくりだと感じます。

わたしが
あかしさんの
キーパーソン



知る人ぞ知る「デニム兄弟」の兄の方です。関東と岡山の二地域居住を経て、2022年に移住しました。

(株)ITONAMI共同代表
山脇 耀平さん[左]

関東の大学在学中に、弟二人と「デニムブランド「EVERY DENIM 現・ITONAMI」」を岡山で立ち上げました。2018年4月から1年3月かけて、弟と一緒にキャビンガカーで全国47都道府県を巡ってデニムを販売。各地で温かく迎えてもらった経験から、次は自分たちが迎える側になろうと海見える宿泊施設「DENIM HOSTEL float」の開業に至りました。SNSなどを通して、価値観の合う人たちとつながりを築けるので、住む場所にこだわらず、関東と地方に拠点を持つ人や、各地を転々とするノマドワーカーなど自分に合う移住スタイルを選ぶ人が増えています。いろいろなつながりがあるので、ぜひ相談してみてください。